

# 母子間の心理的距離の測定に関する研究

山下 文雄（久留米大学医学部小児科）  
秋山 俊夫（福岡教育大学）  
板井 修一（福岡県精神衛生センター）

## 研究目的

現代の子どもの問題は、母子間の心理的距離の異常から発生しているのではないかと思われる。子どもを平気で殴りつけたり、コインロッカーに捨てたりする母親もいる。あるいは、いつまでも子どもと密着して離れることのできない母親もいる。こうした母子関係は、子どもとの適当な距離のとり方を、母親が知らないことから来ているものと考えられる。

我々の研究目的は、母親が子どもとの間にどのような心理的な距離をとるかを測定できる簡便な方法を確立することである。

## 研究計画

1年次：母親の子どもとの心理的距離は、母親が子どもとの間にどのような物理的・空間的距離をとるかによってとらえることができる。また、子どもに対し視線や身体を、どういう方向にむけるかをみることからもとえられる。

1年次の研究では、こうした考え方にもとづき、母親の子どもに対する心理的距離を測定する投影法的テストを考案した。そしてこのテストが、母子関係をとらえる方法として、有効かどうかを検討した。研究内容の詳細については、58年度第2回目の班会議で報告する。

2年次：2年次の研究目的は、テストの標準化を図ることである。種々の年齢段階の子どもの母親を対象に、テストを実施し資料をできるだけ多数収集する。母子関係は、母親の妊娠中から始まっていると考えられるので、妊婦を対象に資料を収集することもあわせておこなう。

3年次：母子関係に問題をもつ母子の治療をおこない、母子関係の改善・変化にともない、テスト結果がどのように変化するかをみる。それによりテストの妥当性の検討と修正をおこなう。また2年次からひきつづいて、テスト標準化のための資料収集をおこなう。